

2018 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 4 限目》

《講座のメインテーマ》

防災・減災は地域の取り組みが  
決めて！その具体的な進め方

記録：講座協力委員 佐藤忠文

◆開催月日：2018 年11 月 01 日(木) 13:30~17:00

◆開催場所:KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆

・前半:災害時に厳しい環境におかれる高齢者障がい者等をいかに支えるかを考える

講師:鍵屋 一氏 (跡見学園女子大学教授)

・後半:受講者グループ討議 初回のグループ討議を踏まえて、テーマ別のグループを再編成して意見交換

進行:中村 誠氏 (横浜市瀬谷区千池自治会副会長)



講師:鍵屋 一氏

《高齢化社会の課題 支援する人・される人》

- ・高齢化：75 歳以上人口（国勢調査等）  
2000 年 900 万人⇒2020 年 1700 万人超
- ・単身世帯の増加：  
60%が、近所付き合いが希薄  
（平成 19 年国民生活白書）
- ・減り続ける消防団員、自治体職員  
20 年で 2 割減（総務省、消防庁 HP）

《東日本大震災 死者の教訓》

- 高齢者が約 6 割、障がい者死亡率は 2 倍  
体力がない、地域とのつながりが弱い  
⇒近所や福祉とのつながりが大切
- 自治体職員 221 名、消防団員 254 名、  
施設職員 86 名  
⇒守り手、支援者・組織の  
危機管理能力向上が必要
- 3,407 名の災害関連死(H27.12 復興庁)  
95%が 66 歳以上、移動や避難所で衰弱  
⇒災害時も福祉の継続が必要

《「正常化の偏見」を打ち破れ！》

障がい者、施設職員、地域住民の正常化の偏見を破る「大災害対応」防災計画づくりを！

従来の防災計画、防災レベルの向上に加え

- ・事業継続計画：子供の長期保護、人員確保、  
備蓄物資の充実等
- ・(福祉) 避難所：避難者の受け入れ、福祉ニーズの充実等

第 4 回アイスブレイク

《某自治会の防災委員の一年間の歩み》



- ・役員のなり手不足  
⇒輪番制を採用
- ・防災計画は自治会全体と子供  
に比重をおいた取り組みの 2 つ  
を計画。

紅林敏行さん

後半:『6 グループ討議』テーマ別にグループで意見交換・討議  
テーマ:「自助」「共助」「避難所」「コミュニティ」

進行:中村 誠さん



総合司会:山田美智子さん

《テーマについての意見交換》

- ・地域の間人関係が重要。
- ・個人情報の取り扱い。
- ・自宅備蓄品の、消耗量に対する配慮。
- ・子供と親しくなる(努力)ことを突破口に。
- ・外国人にどう対応していくか。